

令和5年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 堀口 陽一 副議長 森下 巖 事務局長 東山 康幸
視察日時	令和5年7月5日(水) 13:30~15:30
視察先	茨城県取手市
概要	<p>議会DXについて、委員会のオンライン開催について</p> <p>取手市議会では、DX(デジタルトランスフォーメーション)をDemoTech(デモテック)として捉え(DemoTech)とは、Democracy(民主主義)×Technology(技術)とのこと)、その「デモテック戦略」によって、様々な課題を洗い出している状況とのこと。その課題を解決する策が見出せた先に、新しい形の議会運営などが見える。「議会」という組織には「住民」が含まれており、その「住民」をオンラインを用いてどのように関心向上できる策があるかを模索しているところ。また官民学連携協定(デモテック連携協定・デモテック宣言)により議会の更なるICT化導入による新しい民主主義手法構築に向けて取り組み、課題とその解決策を見出し、他の地方公共団体でそのまま使用できるパッケージを確立することをめざしているとのこと。</p> <p>オンライン委員会は代表的な取り組みであり、新型コロナウイルス感染症対策として接触を避ける会議方法を模索する中で導入に至ったこと、段階に応じた条例改正を経て現在に至り、設備としてそれほど特別な状況にはないが、全国でも例がないであろう360度カメラの導入、また議事運営の中で工夫を重ね課題を克服している様子が伺えた。次にタブレットを活用した取り組みでは、会議のみならず、視察や市民との意見交換などの広聴・広報、日程調整・確認、中学生とのコラボ事業など種々多岐にわたる取組事例を示していただいた。その他、音声テック技術関連連携協定による議会報作成支援システムや、会議録視覚化システムの活用など、市民等の興味を引くとともに、効率、効果を優先した様々な取組みを展開しておられる。</p>
所見	<p>議会DXについて、委員会のオンライン開催について</p> <p>取手市の議会DXでは、特筆すべき点は先進的な取り組みとして、会議の音声をリアルタイムで文字化できるアミボイススクライブアシストを導入している点でした。</p> <p>アミボイススクライブアシストとは、AI(人工知能)音声認識を活用した文字起こし支援アプリケーションで、新型コロナウイルスの感染防止策のため、多くの企業が会議や商談などのオンライン化を進めるなか、記録作成や議事録作成が見込まれていました。私自身も調査していたもので、すでに自治体議会でも導入されていることに驚きました。導入経緯についての質問では、議会の議事録作成に関わっていた企業がアドバンスメディア社で、その企業から、音声を文字変換するアミボイススクライブアシストを試行的に導入する旨の打診があり、導入したもので結果的に早期導入に至りました。このような事例も踏まえ本市でも積極的に議会DXに取り組むべきと感じました。</p>